

TOPIC

婚礼用車椅子を開発

dow-corporation

**白いボディで施設
デザインにも
マッチ**

dow-corporation (どうコーポレーション、東京都港区) は、結婚式にふさわしいデザインの車椅子「Felicità」(フェリチタ)を開発。高齢・障がい者の参式参加用にレンタルを始めた。



▲新郎にもおなじみの白装束が

Felicitàは、婚礼施設のデザインに合わせて器具全体のデザインを白に統一。フレーム部分は光沢感のあるパールホワイトで、背もたれやアームレストには白い人工皮革素材を採用した。座面の下や背もたれには手荷物や資料を収納できるポケットを、座席後部には杖を収納できるベルトを取り付け、新郎新婦でも列席者でも使い勝手が良いよう、デザインと実用性を兼ね備えている。オプションとして、天使のお尻をイメージした形状の高除けカバーも用意。カバーにはスワロフスキークリスタルのアコレーションモチーフを取り付けることもできる。

現在は主に新郎新婦向けに直接貸し出しており、料金は標準モデルで4万8000円(2泊3日・税抜き)。今後はホテル・式場との提携も積極的に行っていく。

製品を開発した同社代表・才野美和子氏は、チャペルアテンダーとして国内の婚礼施設に勤務した経験を持つ。その施設の利用客用

に用意されていた車椅子が、病院などで使われている一般的な製品だったことに違和感を持ったのが開発のきっかけだった。

「あるゲストの方に車椅子をご用意した時、ゲストの方はおしゃれをしていらっしゃるのに、車椅子が普通のデザインだったことにギャップを感じたんです。車椅子も、施設デザインや列席者に合わせておしゃれにならないだろうか、と感じていました」(才野氏)。

チャペル勤務がきっかけ

そこで、旧友の繋がりで高橋の車椅子工房に相談。工房の社長は、才野氏の突然の電話にも彼女が考えるコンセプトと情熱を感じて製品化を快諾した。才野氏は2009年に独立。現在はFelicitàのレンタルのほかには障がいを持つ人の結婚式・婚礼品等のサポート、受け入れ施設へのアドバイス、ウェディングドレスのデザインなどを手掛けている。

「法整備によってハード・インフラのバリアフリー化が進んでも、敷居の高さを感じたり、躊躇したりしている車椅子利用者も多いはず。Felicitàをきっかけにバリアフリーウェディングのサポートをしていきたい」と才野氏は語る。